

問1 古墳時代中期（5世紀後半）におけるヤマト政権（大和政権）の勢力圏の広がりを説明する記述として、最も正しいものはどれですか。（2020年 和歌山県公立入試 類似）

- | | | | |
|---|---|--|---|
| 1. 『魏志』倭人伝に記された女王の朝貢記録により、中国から認められた政権が全国の地方豪族を完全に服従させていたことがわかる。 | 2. 近畿地方を中心に巨大な前方後円墳が作られ始めたことから、この時期にはすでに東北地方まで完全に統一されていたと判断できる。 | 3. 関東地方の稲荷山古墳と九州地方の江田船山古墳から出土した鉄剣・鉄刀に共通の王の名が見られることから、支配が九州から関東まで及んでいたと判断できる。 | 4. 仏教を政治に取り入れた聖徳太子が、全国に国分寺を建てることで、九州から関東までの地方組織を直接支配していたことがわかる。 |
|---|---|--|---|

問2 大和政権の性格について、それ以前の弥生時代の社会状況と比較した説明として、最もふさわしいものはどれか。（2025年 秋田県公立入試 類似）

- | | | | |
|---|--|---|--|
| 1. 大陸からの渡来人によってもたらされた仏教と文字を政治の基盤として、中央集権的な国家を完成させた。 | 2. 銅鐸を用いた共通の祭祀を通じて、各地の小国が独立性を保ったまま、利害関係のない経済圏を築いた。 | 3. 近畿地方の豪族が中心となり、各地の有力な勢力と連合することで広域的な政治支配をめざした。 | 4. 特定の女王がまじないなどの呪術的な力を用いて、各地の小国を完全に服従させ、争いを根絶した。 |
|---|--|---|--|

問3 古墳時代の日本列島において、大陸から移住してきた渡来人によって伝えられた、青灰色で非常に硬い性質を持つ土器の名前を答えなさい。（2024年 鳥取県公立入試 類似）

- | | | | |
|--------|---------|---------|--------|
| 1. 土師器 | 2. 縄文土器 | 3. 弥生土器 | 4. 須恵器 |
|--------|---------|---------|--------|

問4 古墳時代に朝鮮半島などから日本列島へ移り住み、新しい技術や文化を伝えた人々を何と呼びますか。（2025年 岩手県公立入試 類似）

- | | | | |
|--------|--------|--------|--------|
| 1. 遣隋使 | 2. 帰化僧 | 3. 渡来僧 | 4. 渡来人 |
|--------|--------|--------|--------|

問5 日本の関東地方、現在の埼玉県に位置する前方後円墳からは、115文字の銘文が刻まれた金錯銘鉄剣（きんさくめいてっけん）が出土しています。この鉄剣に記された「ワカタケル大王」という名は、当時のヤマト政権の首長を指すとされています。この鉄剣が出土した古墳の名称として正しいものを選んでください。（2016年 三重県公立入試 類似）

- | | | | |
|-----------|----------|----------|---------|
| 1. 江田船山古墳 | 2. 大仙陵古墳 | 3. 稲荷山古墳 | 4. 箸墓古墳 |
|-----------|----------|----------|---------|

問6 大和政権が朝鮮半島や中国大陸から移り住んだ人々を厚遇し、積極的に組織へ組み込んだ理由として、最も適切な説明はどれですか。（2023年 新潟県公立入試 類似）

- | | | | |
|--|---|---|---|
| 1. 大陸の優れた土木技術、金属加工、文字の知識などを取り入れ、政権の支配力を強めるため | 2. 地方の豪族が持っていた鉄器の製造技術を独占し、天皇の権威を否定させるため | 3. 遣唐使を派遣する代わりに、大陸の役人を招いて日本の政治制度をすべて中国風に改めるため | 4. 狩猟採集中心の生活から、初めて稲作を中心とする社会へと移行させる必要があったため |
|--|---|---|---|

問7 4世紀末から5世紀の山口県古墳から出土した銅鏡の記述など、瀬戸内海の航路の要所に位置する地域から王権に関連する品々が見つかることがあります。この事実から推測される、当時のヤマト王権の地方支配のあり方として正しいものはどれですか。（2024年 山口県公立入試 類似）

- | | | | |
|--|---|--|--|
| 1. 遣唐使を派遣するための寄港地を確保するため、山口県周辺を王権の直轄地とした | 2. 邪馬台国の女王卑弥呼が中国から受け取った鏡を、瀬戸内海の豪族に再分配した | 3. 海上交通の要所に位置する豪族と連携し、物流や情報のルートを確保しようとした | 4. 大陸から伝来した青銅器の製造技術を、農業振興のために全国の農民へ普及させた |
|--|---|--|--|

問8 3世紀、邪馬台国の女王である卑弥呼は、中国の魏へ使いを送り「親魏倭王」の称号を授かりました。このように、当時の倭の勢力が中国の王朝へ朝貢を行った政治的背景として、最も適切な説明はどれですか。（2025年 沖縄県公立入試 類似）

- | | | | |
|---------------------------------------|-------------------------------|------------------------------------|---|
| 1. キリスト教の布教を阻止するために、中国からの軍事支援を取り付けるため | 2. 遣唐使を停止したことによる文化的な遅れを取り戻すため | 3. 幕府が定めた禁教政策を東アジア全域に広めるための協力を仰ぐため | 4. 中国皇帝の権威を背景にすることで、国内の諸勢力に対する支配力を高めるため |
|---------------------------------------|-------------------------------|------------------------------------|---|

問9 千葉県最大級の前方後円墳である内裏塚古墳が築造された古墳時代の中期には、大陸との交流を通じて新しい製作技術が導入されました。この時期に生産が始まった「須恵器」の特徴を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2017年 千葉県公立入試 類似）

- | | | | |
|---------------------------------------|-------------------------------------|------------------------------------|------------------------------------|
| 1. 弥生土器の流れを汲み、野焼きによって比較的低温で焼かれた赤褐色の土器 | 2. 青銅を原料として鑄造され、祭祀の道具として用いられた釣鐘型の道具 | 3. 山の斜面などに作られた窯を使い、高温で蒸し焼きにした灰色の土器 | 4. 表面に魔除けの意味を持つ縄目の文様をつけた、厚手で黒褐色の土器 |
|---------------------------------------|-------------------------------------|------------------------------------|------------------------------------|

問10 3世紀後半から4世紀にかけての日本列島の歴史において、大規模な古墳の築造が始まった時期の政治状況を説明した文として、最も適切なものはどれか。（2025年 秋田県公立入試 類似）

- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1. 『魏志』倭人伝に記されているように、九州地方を中心とした女王による統治が続いた。 | 2. 朝鮮半島から移住した渡来人が、最新の鉄器技術を背景に単独の王朝を打ち立てた。 | 3. 各地の小国が対等な立場で同盟を結び、銅鐸を共有する祭祀によって平和を保った。 | 4. 近畿地方の有力な豪族を中心とした、複数の勢力による政治連合が形成された。 |
|---|---|---|---|

問11 古墳が作られていた時代に、中国大陸や朝鮮半島から移り住んできた人々が果たした役割について、技術や文化の面から説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2023年 岡山県公立入試 類似）

- | | | | |
|---|------------------------------------|--|---|
| 1. 唐の優れた制度や文化を直接日本へ持ち帰るため、定期的に使節として派遣された。 | 2. 九州北部の防備にあたりとともに、防人として東国から徴集された。 | 3. 須恵器の製作技術や金属加工、漢字、仏教などの高度な文化・技術を伝えた。 | 4. 鉄砲やキリスト教を日本に伝え、ヨーロッパとの貿易（南蛮貿易）を主導した。 |
|---|------------------------------------|--|---|

問12 大和政権（ヤマト王権）において、朝鮮半島から移り住んだ人々の知識や能力が、政権の運営にどのように活かされたか。当時の記録や実務に関する説明として、最も適切なものを選びなさい。（2024年 熊本県公立入試 類似）

- | | | | |
|--|---|---|---|
| 1. 独自の文字を開発することで、それまで口伝のみであった日本の神話を初めて文字で記録した。 | 2. 将軍から土地の支配権を認められる代わりに、軍役や番役を果たす主従関係の基盤となった。 | 3. 九州北部の沿岸部で、唐や新羅などの外国勢力の侵攻を監視・防衛する軍事的な役割に特化した。 | 4. 文字の読み書きや計算の能力を活かし、公文書の作成や財政管理といった行政実務を担った。 |
|--|---|---|---|

答え合わせ・解説

問1	答え 3 関東地方の稲荷山古墳と九州地方の江田船山古墳から出土した鉄剣・鉄刀に共通の王の名が見られることから、支配が九州から関東まで及んでいたと判断できる。	ヤマト政権の支配範囲が拡大したことを示す考古学的な証拠は、文字が刻まれた金属器の出土です。埼玉県 の 稲荷山古墳から出土した金錯銘鉄剣（きんさくめいてっけん）と、熊本県 の 江田船山古墳から出土した銀象嵌銘大刀（ぎんぞうがんめいたち）には、ともに「ワカタケル大王」という名が刻まれていました。これは、地方の有力者がヤマト政権の大王に仕えていたことを示しており、当時の政権の勢力が九州から関東まで及んでいた確かな根拠となります。
問2	答え 3 近畿地方の豪族が中心となり、各地の有力な勢力と連合することで広域的な政治支配をめざした。	大和政権は、近畿地方の有力豪族が連合して形成された政治組織です。これは、小国が独立して割拠していた弥生時代の状態や、単一の強力な王が全国を直接支配する形態とは異なります。複数の有力な勢力が「連合」という形で結びつくことで、大規模な土木作業が必要な古墳の築造や、対外的な交渉が可能になるほどの広域的な統治体制を整えていったことが大きな特徴です。選択肢にある銅鐸の祭祀や『魏志』倭人伝の記述は、大和政権が成立する以前の弥生時代の特色を指しています。
問3	答え 4 須恵器	朝鮮半島から渡来した人々が伝えた技術により、古墳時代から作られるようになった土器です。それまでの土器が野焼きで焼かれていたのに対し、斜面を利用した穴窯（あながま）を使い、1000度以上の高温で焼き上げるため、非常に硬質（こうしつ）で液体が漏れにくいという特徴があります。
問4	答え 4 渡来人	古墳時代に朝鮮半島などから日本列島へ移り住み、様々な技術や文化を伝えた人々は渡来人と呼ばれます。
問5	答え 3 稲荷山古墳	埼玉県にある稲荷山古墳から出土した鉄剣には、雄略天皇（大泊瀬幼武尊）を指すとされる「ワカタケル大王」の銘文が刻まれていました。これは、5世紀後半のヤマト政権の支配力が関東地方にまで及んでいたことを示す決定的な証拠となっています。熊本県 の 江田船山古墳から出土した鉄刀にも同様の名が見られ、支配の広がりを裏付けています。
問6	答え 1 大陸の優れた土木技術、金属加工、文字の知識などを取り入れ、政権の支配力を強めるため	大和政権は、渡来人が持つ先進的な技術（鉄器製作、灌漑などの土木、織物）や知識（漢字による記録、儒教、仏教）を独占・管理することで、他の有力豪族に対して優位に立とうとしました。これらの技術は、巨大古墳の造営や農地の拡大、組織的な統治に欠かせないものでした。
問7	答え 3 海上交通の要所に位置する豪族と連携し、物流や情報のルートを確保しようとした	ヤマト王権が全国的な影響力を強めるためには、朝鮮半島や中国大陸との外交、あるいは国内の物資輸送に欠かせない海上交通路を掌握することが不可欠でした。山口県のように瀬戸内海沿岸の重要な地点を治める豪族に対し、権威の象徴である銅鏡を与えることで味方につけ、安定した航路の確保と地方への影響力行使を両立させていたと考えられます。なお、卑弥呼の時代は3世紀であり、この問題が扱う4～5世紀とは時代が異なります。
問8	答え 4 中国皇帝の権威を背景にすることで、国内の諸勢力に対する支配力を高めるため	3世紀の日本はまだ統一国家ではなく、多くの小国が対立する状況（倭国大乱など）にありました。卑弥呼は中国の強大な王朝である「魏」から称号や金印、銅鏡などを授かることで、その権威を国内に示し、自らの統治能力や地位をより強固なものにしようとした。これは外交を利用した国内統治の強化という側面を持っています。
問9	答え 3 山の斜面などに作られた窯を使い、高温で蒸し焼きにした灰色の土器	須恵器は、朝鮮半島から伝わった「穴窯（あながま）」という設備を使い、酸素が少ない状態で高温調理（蒸し焼き）にするため、特有の灰色になります。これに対し、同時に使われていた土師器（はじき）は、古墳時代以前からの伝統的な手法である「野焼き」で作られていたため、赤褐色をしています。
問10	答え 4 近畿地方の有力な豪族を中心とした、複数の勢力による政治連合が形成された。	3世紀後半から4世紀ごろになると、近畿地方の有力な豪族たちが中心となり、各地の勢力を結びつけた政治的な連合体が成立しました。これが大和政権（ヤマト王権）であり、その成立と発展は、各地に共通の形式を持つ巨大な古墳が築かれるようになったことから裏付けられます。弥生時代の小国が乱立し、争いを繰り返していた段階から、より広範な地域を統括する仕組みへと移行した重要な時期といえます。
問11	答え 3 須恵器の製作技術や金属加工、漢字、仏教などの高度な文化・技術を伝えた。	渡来人は当時の日本にはなかった高度な技術を多数持っていました。硬くて灰色の土器である「須恵器」の製作、養蚕や機織り、金属の加工といった生産技術のほか、漢字や儒教、仏教などの文字や宗教も彼らを通じて伝えられました。これにより、日本の政治や生活様式は大きく変化しました。
問12	答え 4 文字の読み書きや計算の能力を活かし、公文書の作成や財政管理といった行政実務を担った。	渡来人は優れた技術者だけでなく、文字や計算に精通した知識人でもありました。大和政権は、彼らを「史（ふひと）」として起用し、記録の作成や、貢物（税）の管理などの高度な事務・財政実務を担当させることで、政権の統治機構を強化しました。これに対し、防人は主に東国から徴収された兵士が九州の警備にあたった制度であり、御家人は鎌倉時代の武士を指すため、時代や役割が異なります。